

第4回

朝霞市地域福祉計画推進委員会議事録

令和2年2月18日

福祉部 福祉相談課

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第4回 朝霞市地域福祉計画推進委員会	
開 催 日 時	令和2年2月18日（火） 午後1時25分から 午後3時25分まで	
開 催 場 所	朝霞市民会館（ゆめぱれす）リハーサル室2	
出 席 者	別紙のとおり	
会 議 内 容	別紙のとおり	
会 議 資 料	別紙のとおり	
会 議 録 の 作 成 方 針	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員全員による確認	
そ の 他 の 必 要 事 項	傍聴者 0人	

第4回

朝霞市地域福祉計画推進委員会

令和2年2月18日(火)
午後1時25分から
午後3時25分まで
朝霞市民会館(ゆめばれす)リハーサル室2

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議 題

- (1) 第4期朝霞市地域福祉計画・第4期朝霞市地域福祉活動計画策定にかかるアンケート調査結果について
- (2) 第4期朝霞市地域福祉計画・第4期朝霞市地域福祉活動計画策定にかかるヒアリング調査結果について
- (3) 第4期朝霞市地域福祉計画・第4期朝霞市地域福祉活動計画策定に関する地域懇談会実施結果について
- (4) 第4期朝霞市地域福祉計画・第4期朝霞市地域福祉活動計画策定にかかる住民に身近な圏域について
- (5) その他

4 閉 会

出席委員(11人)

委 員 長	山 本 美 香
副 委 員 長	渡 邊 俊 夫
委 員	丸 山 晃
委 員	尾 池 富美子
委 員	浅 川 俊 夫
委 員	横 田 暁 子
委 員	細 沼 栄
委 員	濱 野 公 成
委 員	坂 本 政 英

委員	渡邊孝一
委員	湯越伸枝

欠席委員（7人）

委員	土佐隆子
委員	本橋輝男
委員	坂本 憐
委員	池田玉季
委員	新坂康夫
委員	須田忠夫
委員	栗原美紀

市事務局（6人）

事務局 福祉部長	三田光明
事務局 福祉部参事兼福祉相談課長	佐藤元樹
事務局 福祉相談課長補佐	西田 恵
事務局 福祉相談課地域福祉係長	佐藤 卓
事務局 福祉相談課地域福祉係主任	秋元一敏
事務局 福祉相談課地域福祉係主事	下川晃秀

社会福祉協議会事務局（2人）

事務局次長兼地域福祉推進課長	秋元一美
地域福祉推進課長補佐	川合義和

コンサルタント会社（2人）

有限責任監査法人トーマツ	折本敦子
有限責任監査法人トーマツ	平岡 晃

資料一覧

- ・朝霞市地域福祉計画推進委員会 次第
- ・資料1 第4期朝霞市地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画策定にかかるアンケート調査結果報告書
- ・資料2 第4期朝霞市地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画策定にかかるヒアリング調査結果報告書
- ・資料3 朝霞市における分野別の圏域等
- ・第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に関する地域懇談会～朝霞の「ふくし」考えてみませんか～実施結果報告書

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎1 開会

○事務局・西田課長補佐

皆様、こんにちは。お待たせして申し訳ございませんでした、定刻を少し過ぎてしまいました
が、朝霞市地域福祉計画及び朝霞市地域福祉活動計画推進委員会を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中御出席いただきましてありがとうございます。進行を務めさせていただきます
す、福祉相談課の西田でございます。どうぞよろしくお願いたします。

初めに、資料の確認をお願いしたいと思います。

事前にお送りしている資料なんですけれども、本日お持ちでない方いらっしゃいましたらお声掛
けいただいてもいいですか。大丈夫でしょうか。

まず、本日の「次第」、それから資料1として「第4期朝霞市地域福祉計画・第4期地域福祉活動
計画策定にかかるアンケート調査結果報告書」、ちょっと厚めのホチキス留めになっている資料でご
ざいます。資料2が「第4期朝霞市地域福祉計画・第4期地域福祉活動計画策定にかかるヒアリン
グ調査結果報告書」、資料3が「朝霞市における分野別の圏域等」となっております。

それから、本日、当日資料として、机上に配付しております資料が、「第4期朝霞市地域福祉計
画・地域福祉活動計画策定に関する地域懇談会～朝霞の「ふくし」考えてみませんか～実施結果報
告書」でございます。

不足等ございませんでしょうか。

◎2 委員長あいさつ

○事務局・西田課長補佐

では、まず初めに、山本委員長からごあいさつをお願いいたします。

○山本委員長

皆さん、こんにちは。

長くお待たせいたしましたけれども、開始したいと思います。今日はですね、今次第の御説明が
あったのですが、議題の（1）から（3）までのアンケート結果、ヒアリング調査結果、そして、
地域懇談会の実施結果についての御報告と御意見、御質問が1時間。そして、約1時間で第4番目
の住民に身近な圏域についてということをお検討いただきたいなと思います。最後に少し「その
他」ということで御報告等ございますので、大体2時間ぐらいで終わりにしたいと思います。よろ
しくどうぞ御協力をお願いいたします。

○事務局・西田課長補佐

ありがとうございました。

それでは、本年度第4回目の会議に入りたいと存じます。

本日の委員の皆様の出席状況ですが、委員18人中、現在10人御出席いただいておりますので、朝霞市地域福祉計画推進委員会条例第7条第2項の規定に基づきまして、会議が成立することを御報告いたします。

また、委員の改選について御報告をさせていただきます。橋本副委員長が民生委員・児童委員協議会の会長を降板されまして、同時にこちらの委員会の方も退任することとなりました。後任には、民生委員・児童委員協議会会長に就任されました土佐さんを委嘱してございますが、本日は御欠席ということでございますので、次回以降にごあいさつをいただきたいと思っております。

それでは、ここからは山本委員長に、進行をお願いいたします。

○山本委員長

本会議は「市政の情報提供及び審議会等の公開に関する指針」によりまして、原則公開となっております。それでは、本日傍聴を希望されている方はいらっしゃいますでしょうか。

傍聴要領に基づいて傍聴を許可することとします。

いらっしゃいますか。

○事務局・佐藤係長

いらっしゃいません。

○山本委員長

本日の傍聴希望者は、現在のところいらっしゃらないということですが、会議の途中で傍聴希望者があった場合には、傍聴席の範囲内で入場していただきますので御了承ください。

それでは、議題に入ります前に、副委員長の選任を行いたいと思っております。

従来、先ほど御説明がありましたけれども、橋本さんにやっていたいただきましたが、御退任ということになりましたので、改めて副委員長の選任を行いたいと思っております。

朝霞市地域福祉計画推進委員会条例5条の規定によりまして、「副委員長は、委員の互選によってこれを定める」ということになっております。

私からは、地域の実情にも詳しく、長く地域福祉計画に携わっていただいております渡邊俊夫委員を推薦したいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。

(異議なし、の声)

よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、御異議がないようですので、本委員会の副委員長は、渡邊俊夫委員にお願いしたいと

思います。

渡邊委員、お引き受けいただけますでしょうか。

○渡邊（俊）委員

はい、分かりました。

○山本委員長

よろしく願いいたします。来てすぐに申し訳ございません。

それでは、渡邊委員、副委員長席へお願いします。

いきなりで恐縮ですが、ごあいさつをしていただいてもよろしいですか。

○渡邊（俊）副委員長

遅れまして申し訳ございません。時間の感覚が、前から続いた会議がありまして、申し訳ありませんでした。

地域福祉計画、やってみながらですね、幅が広くてどうやって収めていいのかって分かりづらい部分がすごく多くてですね、あちらを立てればこちらがという。ただ朝霞のエリアのつながりというところがすごく気になるんですよね。なかなか広すぎちゃってうまく合致していないところがあるから、うまく混ぜてみるといいのかなという、学校区とかそういうのが福祉関係と繋がるというのかなという気がすごくしますね。そういうことができればなと思います。よろしくどうぞお願いいたします。

○山本委員長

よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

◎3 議題（1）第4期朝霞市地域福祉計画・第4期朝霞市地域福祉活動計画策定にかかるアンケート調査結果について

○山本委員長

それでは本日の議題に移りたいと思います。

議題（1）の、第4期朝霞市地域福祉計画・第4期朝霞市地域福祉活動計画策定にかかるアンケート結果について、事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局・秋元主任

それでは、私の方から市民アンケートにつきまして、御説明させていただきたいと思います。

資料1を御覧いただきたいと思います。資料1の1枚目の裏側の2ページを御覧ください。1が「調査の目的」となっております。2が「調査の方法」となっております。

2の「調査の方法」ですが、市民アンケートは、18歳以上の市民3,000人を無作為抽出しております。若者アンケートは、18歳以上29歳以下の市民1,000人を無作為抽出しておりますが、実際にはですね、昨年8月1日現在の男女、住所の比率を加味して抽出しています。

3の「集計・分析のための地区区分」ですが、第2期と第3期に用いられていました「地区区分」を載せてございます。一応、「仮」というふうな形で載せてございます。

それから、4の「回収状況」でございます。市民アンケートは、発送数が3,000件で、回収数が1,408件で、回収率は46.9パーセントでございました。前回は47.7パーセントでしたので、0.8パーセントの減となっております。

若者アンケートは、今回、初めて実施しております。発送数が1,000件で、回収数が262件で、回収率は26.2パーセントでございました。

また、専門職アンケートは、発送数が493件で、回収数が208件、回収率は42.2パーセントでございます。前回は48.6パーセントでございましたので、6.4パーセントの減となっております。

それでは、5ページを御覧ください。1枚めくっていただきまして、裏側です。1として、「回答者自身について」で、問1から問8までございます。前回は全部で9問ございましたが、そのうち「住居」と「地区での役割、役職」に関する質問を削除し、問4の「職業」に関する質問を追加しております。

ここでは、基本的に属性に関する質問で、主にクロス集計に用いるものでございますし、前回と比較しましても特に大きく変化したものはございませんので、省略させていただきまして、10ページに移りたいと思います。

10ページの2の「朝霞市に対する印象について」でございます。「問9 暮らしやすさ」についての質問で、「暮らしやすい」が66.8パーセントで、割合が最もここが多くなっております。次に、「どちらともいえない」が25.6パーセント、「暮らしにくい」が3パーセントとなっております。

また、11ページの年齢別では、年齢が低いほうが、比較的、「暮らしやすい」の割合が高くなっています。その下の「経年比較」では、「暮らしやすい」が、前回と比較して6.2パーセント増えております。

年代が高くなると「暮らしやすい」と回答した方の割合が少し減っていますが、全体としては増加している状況でございます。

次に、12ページの間10ですが、12の生活に関する項目の、それぞれの満足度及び不満足度についてでございます。このうちの「⑨通勤や通学などの交通の便」、「⑩生活用品などの買物」、

「①病院などの医療機関」で、それぞれの「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合が、それぞれ「6割」を超えています。また、それぞれの「不満」と「どちらかといえば不満」を合わせた割合は、それぞれ1割を超えています。

都心へのアクセスが良いため「通勤や通学などの交通の便」、「生活用品などの買物」などの満足度も高まっていることが推察されるかと思えます。

次に、13ページに移りまして、問10の「①児童館、老人福祉センターなどの社会福祉施設」についてでございます。

この「①児童館、老人福祉センターなどの社会福祉施設」の「満足度」及び「不満足度」と、四つの圏域パターンごとにクロス集計したものの棒グラフが示されております。

圏域パターン1（全期アンケート）と表記されています棒グラフが、第2期及び第3期に用いられました「地区区分」で、A地区からE地区ごとに、「満足度」と「不満足度」をクロス集計したものでございます。一番上の棒グラフは①の項目の全体の割合で、四つのグラフとも同じ割合となっております。

圏域パターン2は介護保険における「日常生活圏域」、圏域パターン3が「朝霞市民生委員児童委員地区割」、圏域パターン4が「小学校通学区域」となっています。

これ以降、12の生活に関する項目につきまして、四つの圏域ごとのクロス集計をしたグラフが載っていますが、「議題4」で御説明させていただきたいと思えますので、ここでは、省略させていただきたいと思えます。

次は、61ページになります。61ページの3の「近所付き合いについて」の「問11 近所の人とは普段どのような付き合いをしていますか。」で、普段の近所付き合いは、「あいさつする程度であり近所付き合いはない」が55.0パーセントと最も高く、次に、「会えば立ち話をする」が24.7パーセント、「日頃から親しく付き合っている」が8.2パーセントとなっております。その下の「棒グラフ」の年代別では、年代が低くなると割合が減少しており、若い世代で近所とのつながりが希薄化していると思われます。

次に、64ページの経年比較では、「日頃から親しく付き合っている」が4.5パーセント減、「会えば立ち話をする」が6.9パーセント減で、それぞれ減少しています。近所とのつながりの希薄化が特に若い世代で見取れます。

次に、65ページの「問11-1 近所付き合いをしていない理由は何ですか。」では、「仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない」の回答割合が高く、日頃の忙しさが大きな要因になっていることがうかがえます。

続きまして、72ページの「4 朝霞市社会福祉協議会（朝霞市社協）について」でございます。

「問14 朝霞市社協の活動のうち、知っているものは何ですか。」で、広報紙「社協あさか」が59.5パーセントと割合が最も高く、次に「共同募金運動」が37.6パーセント、「児童館の管理運営」が25.1パーセントとなっています。

次に、73ページを御覧いただきたいと思います。73ページの「5 民生委員・児童委員、保護司について」でございます。「問15 民生委員・児童委員の活動のうち、知っているものはありますか。」では、割合が最も高いのは、「民生委員・児童委員は知っているが活動で知っているものは特にない」が33.8パーセント、次に、「地域住民の見守り」が27.5パーセント、「日常生活の悩みや心配ごとの相談」が24.4パーセントとなっています。

74ページの年齢別では、年代の高い方は、「知っているが、活動で知っているものは特にない」の割合が高く、年代が低くなると「民生委員・児童委員自体を知らない」の割合が高くなっています。若い世代が民生委員・児童委員と接する機会が比較的に少ないので、やむを得ないと思いますが、地域を支える人たちを知ることは必要かと思われます。

次、77ページに移りまして、「6 地域での活動や課題について」で、「問18 あなたの身近な地域には、どのような課題があると思いますか。」についてでございます。「[障害者] バリアフリー環境の整備」が、44.1パーセントと最も高く、次に「[高齢者] 高齢者世帯の生活支援（声掛けや安否確認、買い物支援など）」が42.7パーセント、「[その他] 災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が、40.9パーセントとなっています。

続きまして78ページを御覧いただきたいと思います。78ページの「子育て」、子供子育て分野の五つの項目と年代とのクロス集計では、「[子育て] 共働き家庭の子育て支援」の「30歳から39歳」が59.8パーセントと最も高くなっています。子育て世代の中心となる「30歳から39歳」の方は、「共働き家庭の子育て支援」について課題があると回答しております。

次に81ページに移りまして、「高齢者」分野の五つの項目と年代とのクロス集計でございます。割合が4割を超えている上から2番目の「[高齢者] 高齢者世帯の生活支援（声掛けや安否確認、買い物支援など）」と、上から4番目の「[高齢者] 孤立（孤独死）防止対策」では、特にですね、親が高齢になる「50歳から59歳」の年代が、それぞれ、49.8パーセントと45.3パーセントと高くなっています。

84ページに移りまして、障害のある人の分野の五つの項目と年代とのクロス集計でございます。ここでは、「[障害者] バリアフリー環境の整備」について、各年代で割合が高く、特に「30歳から39歳」が51.5パーセント、「50歳から59歳」が50.6パーセント、「18歳から29歳」が49.3パーセントと高くなっています。若い世代のバリアフリーに関する意識が高まっていることがうかがえるかと思えます。

99ページに移りまして、「7 ボランティア活動について」でございます。「問21 あなたはボランティア活動をしていますか。」について、「やったことはない」が51.5パーセントと最も高く、次に「過去にやったことがある」が21.2パーセント、「興味はあるがやったことはない」が18.6パーセントとなっています。

その下の経年比較の棒グラフを御覧いただきたいと思います。上から3番目の「やったことはない」の回答が51.5パーセントとかなり減少しておりますが、今回から選択肢に、その下にあります「興味はあるがやったことはない」を増やしているのです、その影響で、「やったことはない」を合わせると71.1パーセントとなりますので、ほぼ前回並みのパーセントになったと思います。

また、100ページの「参加できない理由」では、「仕事・アルバイトで忙しい」が46.9パーセントと最も高く、ボランティア活動への参加の障害になっていることはやむを得ないかと思えますが、「始めるきっかけがない（始め方が分からない）」25.6パーセント、「自分に合う活動が分からない」19.9パーセントと回答した方への何らかのアプローチが必要と思われま。

次に114ページに移りまして、「8 防災活動について」でございます。「問26 防災活動に関する項目について」ですが、「身近な避難場所と行き方を知っていますか」では、「はい」が72.4パーセント、「災害時に避難の手助けが必要な近所の人に、手助けをすることができますか」では、「はい」が41.2パーセントとなっています。「地域の自主防災組織に参加していますか」では、「はい」が7.7パーセント、「いいえ」が70.2パーセントとなっています。また、「地域の防災訓練に参加していますか」では、「はい」が12.9パーセントで、「いいえ」が74.9パーセントとなっています。

続きまして、115ページの「参加していない理由」ですが、「仕事や家事で忙しい」が48.4パーセントで最も多く、次に、「行事・活動の情報がない」が35.1パーセント、「健康や体力に不安がある」が15.3パーセントとなっております。「行事・活動の情報がない」35.1パーセントの方に対するアプローチの仕方を検討する必要があるのではないかと考えられます。

次に121ページに移りまして、「9 「地域共生社会」の実現に向けた地域のつながりについて」でございます。「問29 手助けに関する質問」について、「手助けしていること」は、「話し相手」が5パーセントと最も高く、次に「安否確認の声かけ」が4.3パーセント、「困りごとなどの相談」が2.3パーセントとなっています。

また、「手助けできること」は、「安否確認の声かけ」が52.1パーセントと最も高く、次に「日用品などのちょっとした買い物」が38.7パーセント、「災害時・緊急時の手助け」が38.5パーセントとなっています。

「手助けしてもらいたいこと」は、「安否確認の声かけ」が16.2パーセントと最も高く、次い

で、「災害時・緊急時の手助け」が14.4パーセント、「困りごとなどの相談」が9.9パーセントとなっています。

「手助けしていること」と「手助けしてもらいたいこと」の割合の差が最も大きいのは「災害時・緊急時の手助け」、次いで「安否確認の声かけ」、「困りごとなどの相談」となっています。

最後に、126ページを御覧ください。「10 朝霞市の福祉について」で、「問31 朝霞市の福祉についての情報はどこから手に入れますか」では、「朝霞市の広報紙『広報あさか』」が64.8パーセントと最も高く、次に「朝霞市のホームページ」が37.0パーセント、「社協の広報紙『社協あさか』」が28.1パーセントとなっております。

127ページの年代別とのクロス集計では、市及び社協の広報紙の割合が高く、若い年代になると広報紙を入手先とする回答の割合は少なくなっております。

その一方で、128ページのSNSで情報を入手すると回答した割合は若い年代の人が高い傾向があります。

市民アンケートについては、以上でございます。

○山本委員長

ありがとうございました。

今、この会議に当たりアンケート調査の結果を、全部では大変なので、重要だと思われるところを御報告いただいたんですけども、何か、皆さんの方で御質問、あるいは御意見等ございますでしょうか。

どうぞ。

○坂本（政）委員

前回と見比べてみたところ、回収の状況ですけれども、そんなに変わりはなく、いずれにしても50パーセントを割っているんですね。この数字というふうなものを、全国的にこういったアンケートとかそういうのをやっていると思うのですが、こんなものでいろんな計画が立ち上がっていくわけですけれども、果たしてどうなのかなというふうには思いました。それであるならば、今回の問題ではありませんけれども、次回以降にどうしたらこのパーセンテージを上げていけるかというふうなことを、こういった会議の場で中身の検討というよりも回収、我々の知りたいこと、どうしていけばいいのかというふうな問題点の掘り出しというものを、どうしたらできるのかというふうなことを考えていくといいなというのが感想としてあります。

下の、まだ御説明はございませんけれども、若者のアンケートなんかは25パーセントなんですね。なおかつ驚いたのは専門職のアンケート、前回と大体同じなんですけれども、50パーセント、これも割っていると。専門職が割っているというふうなことになってしまうと、これってどう

なのかな。設問内容とか、あるいはアンケートのやり方について工夫があったのかなかったのか分からないですけども、そういったまず見方をしたいなというふうに思います。

○山本委員長

ありがとうございます。

事務局、お願いします。

○事務局・佐藤参事

御意見ありがとうございます。やはりアンケートにつきましては、私どもの方も回収率の向上に向けてということで苦慮しております。幾分、いろんな計画を作る上でアンケートは必須のものと捉えてございますので、今回もですね、無作為抽出でアンケートを出させていただきまして、回収の時期を少し延長して、更に回収率を上げるということで期間の延長をしたということもございました。中には同じようなアンケートを何回も寄こしてということでお叱りのお電話を承ったりですね、そういったところで苦慮している点もございましたが、何とか御協力をお願いしますということでやってございました。

おっしゃるとおり専門職アンケートなどは、専門の方ですので、郵送によるアンケート以外の方法もやはり考えるべきかなというのは御指摘のとおりだと思っておりますので、次回以降というか、いろんな計画を策定する上で研究していかなければいけないものと思っております。

御意見ありがとうございます。

○坂本（政）委員

ありがとうございました。

これ、同じようなやり方でアンケートをやったとしても、多分第5期も同じような形でパーセンテージが出てくるんじゃないかなというふうに思うんです。よって、例えばですけども、民生委員とか町内会とか、そういったところをお願いして配っていただく。あるいはその場で会合があったら書いていただくとかですね。そういった何か違った形でですね、アンケートを集める方法というものがあるんじゃないかなというふうな検討をなされないものかな、なんていうふうに思います。特に今、答えを求めているわけではございません。

以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。

そうなんですよね、どうしてもね、無作為抽出のこういう紙のアンケートは回収率が下がってはいきますが、ほかのところでも20パーセントから30パーセントなんですよね、回収率がね。そういう意味では、よく御協力いただいた方ではないかなというふうには思います。

ただ私もちょっと思ったのは、専門職アンケートの回収率が低いというのは、ちょっと残念で、多分、私どもとしても地域福祉計画、地域福祉活動計画を作る上で本当に専門職の方からですね、今こういうことが課題なんだけれどできないかなというニーズがたくさん出てくることを期待していたんですけども、そこがなかなか御理解が難しかった。一つは、記述が多かったのかなということが、面倒くさいなというふうに思われたかもしれないというところがあります。ただ、そういうこともありますので、あとで御説明があると思うんですけども、ヒアリング調査というものも、非常に少ない数ではありますが、こういうアンケート調査の補足という形で、少ない団体ではありますけれども、幾つかヒアリングをさせていただいて、いわゆる量的調査の不足を実績調査で賄うという形を取ってはいます。ですので、もちろん万全を期すことは大事なんですけれども、ある一定程度の限界ということはあるかなというふうには思います。

これ以降、督促をすとかですね、なるべく記述を減らすとか、そういう工夫をしていくということは、御指摘のとおり重要なことだと思います。

ありがとうございます。

ほかに中身についていかがですか。

どうぞ。

○浅川委員

このアンケートの結果だけで判断するのは早いんですけども、僕たちは長い間町内会の運営をしました。それから、それに合わせて自主防災会の運営もやってきました。

これを見るとね、やはり町内会、自治会に非常に期待を寄せている。どこがやるのかなとか、町内会とか防災会ではないかなという回答が結構出ていますね。でも、僕たちは、やはりその率を上げるためにアパートの方にも町内会に入っていたり、マンションの方にも町内会に入っていて、なるべくボリュームのある事業をやりたいと思うんですけども、いやいや、なかなか入っていただけません。ですから、自治会連合会の方もね、本当に40パーセントちょっとぐらいになったみたいなのが、これを見るとね、思いはそうなんです。自治会とか町内会がやってくだされば協力したい。だけど、防災訓練を全戸でします。ここにもちょっと出てましたね、宣伝活動みたいなものね。PR。今度、何月何日には防災訓練をやりますよと、僕たちがビラを配ったり回覧を回したり、当日は消防車を使って広報活動して、何時から防災訓練を行いますよと。それでも集まって来ないですよ。町内会の役員だけ。特に北原とかあちらの方は古い住宅で、若い人たちがみんな世帯から抜け出して所帯を持つ。ですから、町内会の役員たちも70とか80の夫婦の方がたくさん集まってきています。これで本当にいいのかなって。

こういうアンケートを見るとね、結構若者はやっぱり自治会、町内会に何か期待をしているよう

なところがあります。これは、市の防災計画の中でも同じなんです。やはり、自主防災会、自治会という、非常に活字が出てくるんです。僕たちはそんなにできないよと。僕たちだって高齢化していますし、役員をやる人もいない。役員をやるの大変だというのもございますので、中身と食い違っているところもあろうかと思えます。だけど、せっかくこうやってアンケートを頂いたわけですから、これをうまく何かに活かしていかなくちゃいけないと思えますので。

たまたま僕の地区は社会福祉協議会のモデル地区ということで、ずっと長い間支え活動をやってきました。だけど、もうちょっと同じような活動をしてくれるところはないんですかと、やはり個人情報絡んでくるだとか、そういうことでなかなか進展しない。ですから、管内ではまだうちの方しかこういう活動をしていないんですけれども。やはりこれから、まだちょっと早いんですけれども、そういうものも踏まえてやはりやっていかなくちゃいけないのかなと思えます。

どうもありがとうございます。

○山本委員長

ありがとうございます。

そうなんですよね、防災活動をやっているかと言うと、やってないと言う人が圧倒的に多いのに、期待は大きいということで。じゃあ、誰がやってくれるんですかという、人任せというのが大変よく分かる統計結果になっております。

何ページか、さっきから探しているんですけれども、いざというときに、被災時に自分は助けてあげることができるというふうに言っているながら、周りの人のことはよく知らないという状況で、どうやって助けるんだらうということがあったりですね。お気持ちはとても嬉しいんですけれども、具体的にどうするんだというところまでは、やっぱり考えていないという感覚が出ているなどということですが、やはりこの間の台風でこちらの市の方も1,000人近い方が避難されたというふうに伺っておりますので、この問題は避けて通れないんじゃないかなと思えますので、そこをどうしていくかということをごすね、いかがでしょうか。

どうぞ。

○尾池委員

文言の説明をお願いしたいんですけれども、181ページの下の方に「アンガーマネジメントを取り入れる」ということと、それと191ページの上の方で、「青少年の健全育成、犯罪や非行」のところに「教育改革」という四文字だけであるんですけれども、何をどんなふうに理解するのかを教えてください。

○山本委員長

これは、専門職アンケートのところですね。専門職アンケートのところでの御質問ということに

なるので、どうしましょう。あとで御説明していただくときに一緒にしていただけますか。説明と
いうか、書いてあることが分からない。「アンガーマネジメント」は、意味だと思うんですけど
も、では尾池委員、ちょっと専門職アンケートの説明はもうちょっとあとになるんですが、そこで
よろしいですか。

○尾池委員

はい。

○山本委員長

では、あとでお分かりになる範囲で結構ですので、回答お願いします。

それでは、一般市民のところはいいですか。

一般市民のところでは、私の方が気が付いたというか、皆さんもお気づきだと思うんですが、や
はり経年変化を見ると、親しくしているとか、会えばあいさつをするという人の率がどんどん下が
っていて、近所付き合いはないよという人の方が、回を追うごとにやっぱり増えているというこ
とが、仕方がないと言えば仕方がないのかもしれないんですけども、その辺が、先ほどの防災活動
とかですね、いざというときには助け合うというところからは、少し現実と理想がかい離している
状況というのがうかがえるかなというふうに思います。

どうぞ。

○尾池委員

一般のところですね、77ページ、「地域での活動や課題について」とあるんですけども、声かけ
や安否確認、それがすごく高い比率になっているんですけども、これは、市民がそう思っている
ということは、課題として捉えているということは、声をかけてほしいんだけど、そうなってい
ない現実が課題だよという意味と捉えてよろしいでしょうか。

○山本委員長

いかがでしょうか。これは、6のところですね。「地域での活動や課題について」ということで、
安否確認というのは、42.7パーセントのところですかね。そういうことですよ。

どうぞ。

○事務局・佐藤参事

アンケートですので、自分が対象になるか、それとも自分が思っているかというのは、両方の立
場だと思っておりますので、一概に助けてほしいというものもあれば、助けたいというような両方
だと思っております。

○山本委員長

そうですね。これ「あなたの身近な地域には、どのような課題があると思いますか。」ということ

を聴いていますので、自分について声かけや安否確認というのもあるでしょうし、近所に高齢の人が多いため、そういうのが必要だと感じていらっしゃるのもあるでしょうね。

どうぞ。

○坂本（政）委員

72ページの「朝霞市社協の活動のうち、知っているものは何ですか。」というのが、社協あさかの発行というのは60パーセント近くあると。なおかつですね、126ページ、「朝霞市の福祉についての情報はどこから手に入れますか。」では64.8パーセント知っていると。それで、私が問題にしたのは100ページにですね、ボランティアについて「始めるきっかけが分からない」と。これが数に直すと250人ぐらいですよ。なので、今言った社会福祉協議会とか市広報のほかに、分からないんだよみたいな話が出て来たら、ここを是非、こういう結果が出たので取り入れてやっていくみたいな。そういったものって、私が気付いたのはさっきのどこなんですけど、ほかにもあったらそういったものを入れていくといいなと思いました。

以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。

これ見ると、確かに広報紙は結構読んでますよと言っている割には、始めるきっかけが分からない、情報がない、そういう御意見があつて、出してるんだけどという、出してらっしゃる方からはそういう感じなんですけど、受け手の方が、いえ受け取っていませんという感じがあるということなんですかね。この辺について、普段からお考えになってらっしゃると思いますが、社会福祉協議会から何かありますか。工夫とか。

○社会福祉協議会事務局・秋元次長

社会福祉協議会の秋元です。ありがとうございます。

朝霞市の広報紙は全戸配布なんですけど、社会福祉協議会の広報紙は全戸配布ではなくて、今、町内会・理事会にお願いして、配布していただいているというのが現実です。それ以外の社会福祉協議会の広報はどこに置いてあるかというところ、公共施設であるとか、そういうところに広報を置かせていただいているので、市民の方に直接手元に届いているかというところは疑問があります。ただし、社会福祉協議会がそんなに財源が豊かではないので、市のように全部の世帯に広報を配布するというのは、現実的には考えてないです。なので今後、SNSであるとかホームページであるとかツイッターであるとか、若い方たちにも情報が発信できるように、社会福祉協議会、去年辺りから工夫をさせていただいているんですけど、もう少し情報が届かないというところを、もう少し掘り下げて社会福祉協議会は考えていく必要があるかなと思っています。

以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。

それでは、ちょっと時間の関係がありますので、いったんほかのアンケートと専門職アンケートを説明いただいてから御質問いただきたいと思います。

○事務局・下川主事

続いて、若者アンケートについて、御説明いたします。

資料（１）の１３６ページを御覧いただけますでしょうか。市民アンケートと同じく、こちらの方も量が多くなってございますので、ポイントをかいつまんで御説明いたします。

まず、１３６ページの間１から１３９ページの間６までは、「回答者自身について」の設問でございます。基本的にはクロス集計に用いる設問ですので、こちらは割愛させていただきます。

続いて、１４０ページを御覧ください。

問７からは「朝霞市での暮らしについて」ということで、設問がございます。問７では「朝霞市に住み続けたいと思いますか。」について、「思う」が３８．２パーセントと割合が最も高く、続いて「少し思う」が２４．４パーセント、「どちらともいえない」が２４パーセントとなっています。

また、１４１ページの間８、「朝霞市に住んでいて良かったことは何ですか。」については、「交通の便が良い」が６６．８パーセントと割合が高く、次いで「買い物などの日常生活が便利」が４３．５パーセントとなっています。回答者のうち、６０パーセント以上が朝霞市に住み続けたいと考えており、その理由は「交通の便が良い」ため、都心に近いからと推察することができます。また、「買い物などの日常生活が便利」ということについても、都心に近いことが影響している可能性がございます。

続いて、１４６ページの間１１を御覧ください。こちらは朝霞市に期待することについての設問で、「商業施設の充実」が３１．７パーセントと割合が最も高く、次いで「日常生活の便利さ」が２６．３パーセント、「飲食店の充実」、「子育てのしやすさ（子育て環境の充実）」が２１パーセントとなっています。「商業施設の充実」、「日常生活の便利さ」が高い結果であることから、東京へのアクセスは良いものの、地元の更なる買い物などの便利さを若者が求めているということが考えられます。

続きまして、１５１ページを御覧ください。

問１２の（１）では、参加したことがある地域の活動・行事を聴いています。「地域のお祭りや伝統行事に自ら関わる活動」が２７．１パーセントと割合が最も高く、次いで「地域のレクリエーション（スポーツ活動や文化活動）」が１０．３パーセント、「募金活動や献血」が８パーセントとな

っています。「地域のお祭りや伝統行事に自ら関わる活動」は若者が参加する際のハードルが低いと推測され、何らかの施策を行う際に若者に対して直接アプローチする場合は有効な手段になり得ると考えられます。

次に152ページの間12の(2)、今後参加してみたい活動についてですが、「外国人との交流や国際協力のための活動」が23.3パーセントと割合が最も高く、次いで「子どもたちの指導や世話」と「地域の避難訓練や防災活動」が20.2パーセントでありました。

また、157ページの間12-3では、地域活動や行事に参加しない理由を聴いており、「どのような活動があるか知らない」との回答が45パーセントと最も高く、次いで「忙しくて時間が無い」、「参加するきっかけがない」が38.8パーセントでありました。

以上のことから、「外国人との交流や国際協力のための活動」について関心を持つ若者が多く、2020年のオリンピック・パラリンピックなども影響し、関心が高まっている可能性がございます。今後、交流イベントなどを企画することで、若者の地域活動への参加が促される可能性が考えられます。また、「忙しくて時間が無い」若者へのアプローチは難しいですが、「どのような活動があるか知らない」、「参加するきっかけがない」と回答した若者にアプローチができれば、地域活動への参加につなげることができると考えられます。

続きまして、173ページの間17を御覧ください。

ニュースなどの情報入手手段についての質問でございます。情報をどのように入手しているかは、「テレビ」が77.1パーセントと割合が最も高く、次いで「インターネット」、「SNS」、が74パーセントとなっています。

また、間18の、利用しているSNSについての設問ですが、「LINE」が94.3パーセントと最も割合が高く、次いで「YouTube」が76.3パーセント、「Twitter」が74パーセントでありました。テレビについては全国放送など幾つかのカテゴリーがあり、地域ケーブルテレビなどの視聴状況を加味する必要があるため、具体的な地域情報の発信媒体として活用することは課題が大きいと考えられます。一方でSNS、インターネットについては、地域の情報に関心のある若者に直接的に情報を発信できるため、有効な情報伝達手段になり得るかと思えます。

若者アンケートの集計結果についての説明は以上でございます。

○山本委員長

ありがとうございました。

今の若者アンケートについての御意見、御質問ございますでしょうか。

今回初めての試みで、若者と言っても、御説明が省かれたんですけども、学生と会社員というのはちょっと違うんですね。138ページに間4のところで「あなたの職業は。」というのがある

まして、上の方の間4のところですけど、「会社員・役員」が41.2パーセント、その次に多いのが「学生」で27.9パーセントとなっております。ですので、18歳から25歳ということなので、家庭があって子育てをしているという人もいれば、学生、東洋大学の学生が結構いると思うんですけども、その学生というのであったりするので、特性がいろいろかと思えますけれども。

いかがでしょうか。先ほども出ましたけれども、どういうところに参加したい、活動したいかというよりは、「外国人との交流や国際協力のための活動」というのが最も高い。その次は「子どもたちの指導や世話」で、先ほど出ましたけど「地域の避難訓練や防災活動」が20.2パーセントということで、やはり防災活動には関心があるということが言えます。

尾池委員は結構、国際交流に関心が高いつて聴きましたけど、いかがでしょうか。

○尾池委員

とても嬉しいことです。さっきのボランティアの話もありましたけれども、第八小学校でお話をさせていただいたときに、あなたたちは立派なボランティア活動、国際貢献活動をしてるんですよという話をしたんですね。そのときに、30人いた子供たちの顔がすごく輝いた。後ほど、その先生の方から、私を教室に呼んでくださった方を通じて、子供たちがその後、無意識でやっていたことが、そんな素晴らしいことだったということに気付いて、自己肯定感が増しましたということを私に伝えるようにと言われたらしいんですね。ですから、さっきの調査のところもボランティアの定義がないから、無意識でボランティアしている方、もっともっといらっしゃると思うんです。でもそれがボランティアだとは気が付かない。国際交流とかも若者じゃなくてもみんなができることだから、でも意識的に、そういう若者が興味を持つということは、とても嬉しいことです。期待したいと思います。

○山本委員長

ありがとうございます。

いかがですか、何かございますか。

はい、じゃあ。

○横田委員

横田と申します。

先日、宮戸の町内会で1月ですけども、お餅つきがあったんですね。そのときに、新しい家がどんどん増えているので、どれだけの若い世帯が関心があつて来てくれるかなとすごい心配だったんですけども、29歳までとは限りません。もうちょっと上になっているかもしれませんが、子育て真っ最中の若い家族がたくさん来てくれたんですね。それで、どうして今日ここに、何で分かったのと聴いたら、立て看板を見て来たと言うんですね。あと、町内会の回覧板。それは町内会

に入っていないと分からない内容なんですけれども、回覧板ではなくても誰でも来れるという町々の掲示板に貼るのもいいのかなと今回実感しました。非常に楽しそうに、これからも、もっとこういうのをやってもらいたいということ。

そして、この間の2月の一番最初にあった産業文化センターのフェアがありましたけれども、あそこにも駅から下りて来ると、何だろうこの人ばかりと思うと、やっぱり若い人たちが楽しいイベントを求めてやっぱり来たんだなということが分かりました。なので、若い人たち捨てたもんじやないなとか、まだまだこれから力になってくれるなとかいうのを、ここからも実感しましたし、私たちも何かやりたいけどきっかけがないという、それはもったいないと本当に今回、自分たちの体験も含めて思いましたので、何かそういう力を、うねりを地域の方に向けてもらえたらいいのかなと実感いたしました。それをアンケートからも感じました。

以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。

はい、どうぞ。

○渡邊（俊）副委員長

今、市民祭りが非常に盛んです。ただしかし残念なのは、町内会での市民祭りのチームというのがどんどん減ってきてしまって、今多分三つぐらいしかないかなと思います。本町の方と宮戸、朝霞溝沼ですね。今、なぜこの話をしようと、同じような話なんですけど、やはり溝沼の場合は、溝沼の町内会に入らなくても、踊りたければそこに会費を払ってチームの中に入れます。助成金もそのチームで出していますので、一応溝沼チームという形になっていますけれども、確かに市民祭りたくさん集まって来ます。今、大体チーム100人ぐらいおります。なぜこの話をするかというと、いろんなボランティアにチームとして出てくるわけですよ。例えば町内会の役員と別に鳴子チームとして、例えば川のごみの清掃とか、それから防災訓練の防犯対策。何であなたのところは若い人がこんなにいるんだと。いや、これは鳴子チームですよ。鳴子チームが助成金を出してチームの運営に携わっているの、運営は若い人たちがやっていますからね、それに協力していただく。あとは、氷川神社の中で行われます、溝沼の盆踊り大会とか、昼間子供を集めて子供と一緒に遊ぶゲームなどございますけど、そういうのにも積極的に参加していただきます。ですから、朝霞の市民祭りとボランティアと、皆さん一緒に参加をしてくださるので、僕たちも鳴子チームというのは、これからも大事にしていきたいなと思っております。

以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。

朝霞は確かに市民祭りすごく盛んで、今おっしゃったような形で、若い人も吸収できているんだなど、それ大事にしたいですね。ありがとうございました。

よろしいですか。専門職の方の説明をお願いいたします。

○事務局・秋元主任

それでは、私の方から説明させていただきます。

資料（１）の１７７ページからになります。

問１と問２は、回答者に関する質問で、１８０ページの間３を御覧いただきたいと思います。地域で気になる課題を三つ上げて、解決に向けたアイデア、御意見を記入する設問です。「高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認。買い物支援など）」が２０．７パーセントと割合が最も高く、次いで「子どもへの虐待防止対策」が１７．８パーセント、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が１５．９パーセントとなっています。

市民アンケートの間１９で同様の質問をしていますが、「高齢者世帯の生活支援」が３番目に割合が高く、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が４番目となっています。専門職、市民共に課題として強く感じていると思われれます。また、２番目に割合が１７．８パーセントと高い「子どもへの虐待防止対策」は、市民アンケートでは９番目で４．２パーセントとなっており、割合に差があり、専門職の方が地域を比較して強く課題として感じていると思われれます。

次に、２００ページの間５、情報交換を行ったり、連携をしている相手先を選択する質問です。相手先は、「市役所」が７１．２パーセントと最も割合が高く、次いで、「地域包括支援センター」が５２．９パーセント、「民生委員・児童委員」が４３．８パーセントとなっています。

また、２１１ページの間６、今後連携を強めたい相手は、「市役所」が４３．８パーセントと最も割合が高く、次いで「地域包括支援センター」、「自治会・町内会」が、それぞれ３２．７パーセント、「民生委員・児童委員」は３１．７パーセントとなっています。

「市役所」、「地域包括支援センター」、「民生委員・児童委員」は現在の情報交換・連携の相手先であり、今後も連携を強めたいと考えている専門職の方が多くいることが推察されます。また、「自治会・町内会」は、問５の「現在、連携している相手先」では、２９．３パーセントで６番目でしたが、問６の「今後、連携を強めたい相手」では、３２．７パーセントで２番目でした。現状の連携内容に満足しておらず、連携強化を考える専門職の方が多く、きめ細かなフォローを行うためには、「自治会・町内会」などの地域との連携を強化したいとの意向ではないかと思われれます。

次に、２２０ページの間７の、地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項についてです。

ここでは、「支援関係機関間の連携」が29.8パーセントと割合が最も高く、次に「福祉サービスの利用に関する情報提供」が28.4パーセント、「避難行動要支援者の把握及び日常的な見守り、支援の推進方策」が25.0パーセントとなっています。

「支援関係機関間の連携」の解決に向けたアイデア・意見欄には、分野別の縦割りで支援や業種・官民などの垣根を越えて、地域福祉に取り込む必要性が挙げられています。また、「福祉サービスの利用に関する情報提供」につきましても、市民が抱える多岐にわたる課題に対する相談窓口や気軽に聴ける方法が分からず、結果として福祉サービスに関する情報も必要な人に届いていない状況がうかがえ、地域共生社会の実現に向けて、横断的な対応が求められていると推察されます。

次に、225ページの間8、地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために優先的に取り組むべき事項で、三つ選択する質問です。

最も割合が高いのは、20.7パーセントで「住民等の交流会」、次いで、「地域の福祉の在り方について住民等の理解と関心を深める」が19.7パーセント、「地域住民の主体的な活動と公共的サービスの連携」が19.2パーセントとなっています。

解決に向けたアイデア・意見欄には、「自治会・町内会」に対する課題なども記載され、地域のつながりの希薄化が進む中、地域福祉の土台とも言えます「自治会・町内会」への課題意識が高いことがうかがえます。

最後に、230ページの間9、地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備に関する事項として最優先に取り組むべき事項で、三つ選択する質問です。

ここでは、「地域住民が相互に交流を図ることができる拠点の整備」が26.4パーセントと割合が最も高く、次いで「地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知」が24.5パーセント、「地域福祉に関する活動への、地域住民の参加を促す活動を行う者に対する支援」が23.6パーセントとなっています。

地域のつながりの希薄化が進む中、地域住民が相互に交流を図ることが必要と考える専門職の方が多くいると思われます。また、選択肢の上から4番目の「『住民に身近な圏域』において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備」と比較して、選択肢の5番目の「地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知」の割合が高いことから、相談の場は、ある程度存在していますが、それが十分に周知されていないと感じている専門職の方が多くいることが推察されます。

説明としては、以上でございます。

○山本委員長

ありがとうございました。

専門職のところでは、先ほど申しあげましたように、記述を結構たくさんしていただいているん

です。今のところは選択肢を設けて御回答いただいたところになりますけれども、何かお感じになったことはございますでしょうか。

はい、どうぞ。

○横田委員

専門職の方も地域の中に溶け込もうというか、地域の中に入っていこうという感じをすごく感じました。元々そういう状態ではあることが分かっていたんですけども、なおかつ、このアンケートを見て、ただこの施設の中で専門職の仕事をするのではなく、専門職の人も地域に飛び出て、そして地域の課題を見つけないかという気持ちが、ちょっとこの中から感じ取ることができました。

実際に私は内間木圏域の中の宮戸なんですけれども、やっぱり内間木圏域の人たちもよく我々のサロンに来たり、町内会のイベントに来たり、総会に来たりされておりますので、そういう意味では専門職の人も表に地域に出ようという気持ちがあるんだなと感じました。

以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。

細沼委員、いかがでしょうか。専門職アンケート御覧になってみて。

○細沼委員

なかなか難しい、記述等が多いので全部は読んでないんですけども、アンケートの回収率の関係も、こういう記述からの関係があったのかなと思っております。

○山本委員長

ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。町内会・自治会とも、もっと連携する必要があると出ておりましたし、それから最後に御説明がありましたけれども、相談を待っているものを、もっと周知していかないといけないというようなことが、一般の人に周知していかなければいけないということが出て来たかと思えますし。

何かありますか。

○渡邊（俊）副委員長

多分いろんな組織の人が、お互いに半歩ずつ引いちゃっているから一歩ずれちゃってるんじゃないかなという気がすごくします。片方で期待としてはあるんだけど、それを行動となって取れていない。お互いにそうやっていると、やっぱり間が広がっちゃっている感じ。アンケートを見ると、そんな感じがすごく。関わりたいんだけど関われないというところのお互いの部分がアンケートの結果で出てきてるかなという気がすごくします。

○山本委員長

ありがとうございます。

◎3 議題（２）第４期朝霞市地域福祉計画・第４期朝霞市地域福祉活動計画策定にかかるヒアリング調査結果について

○山本委員長

引き続きまして、次に今度はアンケートだけでは、やはりいろんなところが分からない、詳細が分からないということで、ヒアリング調査もしていただいておりますので、その結果についての御報告お願いいたします。

○事務局・下川主事

ヒアリング調査結果について、御説明いたします。資料２を御覧いただけますでしょうか。

ヒアリング調査につきましては、福祉関係団体に御協力いただき、アンケート調査とグループヒアリングの２本立てで実施いたしました。

まず、アンケート調査の結果から御説明いたします。資料２の２ページを御覧ください。

２ページ目の３番、「回収状況」ですが、今回は８７団体にアンケート調査票を送付し、５６団体の回答がございました。回収率にしますと、６４．４パーセントとなり、前回より１０．６パーセント増という結果になっております。分野ごとの回収状況は表にあるとおりでございます。

続いて、アンケート集計結果についてですが、９ページの間２を御覧ください。団体が活動を行う上で困っていることについて聴いている設問でございます。回答を見ると、「リーダー（後継者）が育たない」が３９．３パーセントと最も割合が高く、次いで「メンバーの高齢化」が３７．５パーセント、「新しいメンバーが入らない」が３３．９パーセントとなっております。

この結果から、仕事・家事・育児に忙しい若者が、地域活動に参加することのハードルは高いと考えられますが、一方で、間２－１を御覧いただきますと、活動を行う上で困っていることに対する課題解決に必要なこととして、若い世代の活動への参加が強く求められている回答が多くございました。活動に興味を示し参加するために、若者が利用するＳＮＳなどの通信手段を用いて、参加する際の利点などを訴求することが求められると推察されます。

続きまして、１７ページの間６を御覧ください。

こちらの設問では、活動を通じて感じる、地域の問題点や課題を聴いております。結果を見ますと、「世代間の交流が少ない」が４４．６パーセントと最も割合が高く、次いで「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」が３９．３パーセント、「隣近所との交流が少ない」、「大規模な風水害や地震時の避難と安否確認等、防災対策に不安がある」が２６．８パーセントとなっております。上位三

つに地域の交流に関する課題が挙げられており、課題意識が極めて強いことが推察されます。各種アンケート調査の自由記述の内容なども踏まえ、市民に必要とされる仕掛けなどを検討していく必要があると考えられます。

続いて、20ページの問9になります。

こちらでは、地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべきことを聴いております。結果は、「支援関係機関間の連携」が23.2パーセントで最も割合が高く、次いで「相談体制の確保」が21.4パーセント、「福祉サービスの利用に関する情報提供」が19.6パーセントとなっております。専門職アンケートでも同様の質問をしており、「支援関係機関間の連携」と回答する割合が最も高くなっていました。計画策定の際にも、地域共生社会の実現に向けた優先度の高い項目として対策を検討していく必要があると考えられます。

続いて、24ページの問11を御覧ください。

包括的な支援体制の整備に関する事項として優先的に取り組むべきものを聴いている設問でございます。結果としましては、「支援を必要とする者の早期把握」が25.0パーセントと最も割合が高く、次いで「地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備」が21.4パーセント、「地域住民等との連携」が12.5パーセントとなっております。以上の結果から、課題を抱えた人を支えるために、支援を必要とする者の早期把握は多くの団体で重要視されていることが分かります。また、「地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備」につきましては、専門職アンケートでは最も高い割合だった課題でもあるので、対策が特に求められる内容であると考えられます。

続きまして、31ページを御覧ください。

31ページ以降がヒアリング調査結果についてまとめたものになります。アンケート調査で御回答いただいた団体の中から16団体に御参加いただき、アンケート調査には書ききれない部分や、より掘り下げた課題の把握に向けて、分野ごとのグループヒアリングを実施いたしました。33ページ以降、ヒアリングの結果について掲載しておりますが、33ページから高齢者分野、34ページから障害のある人の分野、35ページから地域活動団体、36ページから子供の分野となっております。

グループヒアリングは、コンサルタント会社のトーマツさんに、ファシリテーターを担っていただきまして、そこに市と社会福祉協議会の職員も同席させていただき、お話を伺いました。1グループにつき1時間半の時間を設けて行いましたが、時間が足りないくらい様々な意見がございました。結果につきましては、こちらの方、皆様に御高覧いただければと思います。こちらの結果を基礎資料として、課題の把握に向けて分析を進めていきたいと思っております。

説明は以上でございます。

○山本委員長

ありがとうございました。

まず、団体にアンケートをしていただいて、その中から再度グループヒアリングを行っていただいたというこの御説明です。

いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○尾池委員

質問・意見ではないんですけども、23ページの上から最初のマスのところなんですけれども、「NPO法人として」とあるんですけども、漢字のこの「期間」でなく、いろいろな木偏の「機関」。市役所とか団体とか、それから行政機関とか、いろいろありますね。そっちの「機関」です。誤字だと思います。よろしく願いいたします。

○山本委員長

ありがとうございます。

「間」という期間になってますね。

濱野委員、いかがでしょうか。こちら御覧に、今までの全部含めて結構でございます。

○濱野委員

皆さん、周りの関係団体と仲良くしたいというのが根本にあって、結局ほかの関係団体の力も利用したいという思いが伝わっているんですけど、これをもう一歩先に行くために、どうしたらいいかということをお悩んでいるのかなと思いますが、そこは難しいですよ。何かそんな感じがしました。

○山本委員長

ありがとうございます。

先ほど副委員長も半歩引いてるんじゃないかという話がありましたけれども、その辺は丸山委員、いかがですか。

○丸山委員

難しい。アンケートって答えるのがとても難しいところで、分析も、これからじっくりしないといけないと思うんですけど、さっきの半歩うんぬんというのは、専門職アンケートで言うと、私気になったのは、分厚い専門職アンケートの179ページに、あなたの関わる主な専門分野の種別を選択させているところで、一番多いのが「民生委員・児童委員」で38.0パーセント、次に「小学校」、「中学校」を一くくりにすると約3割。実はこれ、多分先生方だと思うんですけど、そ

うすると学校と民生委員と合わせると、これで6割ぐらいになるんですね。180ページの棒グラフの方、自由記述はともかく棒グラフの方で、例えばどこと連携するかといろいろ言ったときに、民生委員が民生委員を選択するのかなとか。学校の先生は学校って書かないよなと思ったときに、例えばいわゆる福祉事業所と一くくりに。それと学校を一くくりに、民生・児童委員・保護司で一くくりに。場合によっては市役所、どういう方が分からないけど、市役所というくくりで問3以下の選択肢の記述と、それからひょっとしたら特定されちゃうかもしれないけれども、ちょっと誰が答えたかというのを分けると、ちょっと違うのが出てくるかなと。一歩引いたというよりも、民生委員は、こことつながりたい。学校の先生は、こういうところに期待している。福祉事業所は、こういうところに、こういう考えを持っている。そういうのがちょっと出てくるかなと思ったりもしました。

○山本委員長

ありがとうございます。重要な御指摘で。今回はまだ集計までしかできていないので、ここからまだ分析ということもあるので、今おっしゃってくださったような民生委員・児童委員は、どういふところと連携したいかとか、学校現場ではどうかとか、包括はどうだというのを、少しクロスを変えてみるというか特定しながらやってみるというのものもあるかな。これからの連携の仕方ということであるかなと思います。

はい、どうぞ。

○坂本（政）委員

いわゆる団体数として56ですね。それをパーセンテージで表すと、先ほどの説明なんかでパーセントが多いからということの説明があるわけなんですけれども、結局、大体例えば9ページなんか見ますとね。

○山本委員長

薄い方ですね。

○坂本（政）委員

はい。

39.3パーセントと37.5パーセントが一段階しか変わらないんですよ。ただ一番多かったのはそこだとかいう説明よりは、やはりアンケート対象者の団体数なんかを見ますとね、高齢者が28で子供が7とかというふうな数字が出ていて、そうするとですね、問題意識とか問題にされる部分が違ってきますので、今先生がおっしゃったような形で、今後パーセンテージよりも人数がいるのかどうか検討していただいて、どこがどういう問題を抱えているのかという、そういう形での表現がいいのかなと思いました。

以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。

そうですね、これ56ということで、なかなか統計的にものを言うぎりぎりの数値だと思うんですけども、おっしゃるとおり、子供は7団体しかございませんので、子供の場合はどうだということを記述等を含めて、しっかり見ていく必要があるかなと思います。

例えば連携している団体が非常に多いですが、子供だけに絞ったときそうなのとかかですね、そういうことも出てきますので、ちょっと大変ですけども、その辺の分析も必要になるかと思いません。

公募委員の渡邊委員、いかがでしょうか。御覧になって全体として。

○渡邊（孝）委員

正直言って、家で見ると虫眼鏡が必要なので、全部見きれっていません、正直言って。ポイントだけ飛んで見てきたんですけど、それでも頭に入るのは、またその何分の一とかで、しゃべるとなると全然なくなっちゃって。今日、今皆さん方からお話伺いまして、なるほどな、そういうことだったんだというのが今日の実感でございます。すみません、お恥ずかしい。

○山本委員長

とんでもございません。すみません。そうですね、ちょっとこれ多分1枚にすると相当な部数になるということで、半分ずつあれなんだと思うんですけど、確かに全然見えないところもあったりして、そこはもしかしたら今後はお考えいただいた方がよろしいかもしれないですね。

湯越委員、いかがでしょうか。どこでも結構でございます。

○湯越委員

アンケートを書く方としては、設問数が多いなと感じました。ネットでも、メールでアンケート、私に市役所の方から来るんですけど、やっぱり設問数が多いので、ちょっと自分の時間が空いたときにしかできない。特に若者とかは、このボリュームだけでやめちゃうかなという感じがしました。

それと、意外に私は大変申し訳ないんですけど、働いてない高齢の方の方がよくお答えになられているのかなと思ったんですけど、実際は違って、私たち、私はちょっと上ですけど、私より下の働く世代が非常に感心を持って答えているということは大きいんじゃないかなと思います。

私もそうですが、関心のあること、ないことありまして、関心のあるもの、ないもので、参加基準を決めますので、先ほども餅つきは子供が関心があるから行くかなとか。でもそうすると、30代が関心があるかというところでもないみたい。そういうのでやっていくのであれば、先ほど尾

池委員が言われた、小学校に出向いて行かれたというのは、とても興味がありました。人を集めるのではなく、集まった所に行って説明をするというのは大きいのではないかなと。例えば保護者会には来ない、PTA活動には来ない親御さんも運動会には来られます。ですので、そういうところで、防災訓練じゃないけど、お昼休みの5分とかで、そういう例えば川の近くだとすると、この間の台風のようなときの一言アドバイスじゃないけど、こういうことを心掛けましょうと。皆さん慣れすぎて本当かと思ったりだとか、災害のアラームに真剣に取り組みましょうとか、そういうふうなことで、短い時間で人の集まる所でPRし続けることも必要なんじゃないかなと個人的には思っています。

○山本委員長

貴重な御意見ありがとうございます。そういった工夫もこれからしていく必要があるかと思えます。

先ほど尾池委員の方からアンガーマネジメントと教育改革についての御質問があったんですけども、これは専門職へのアンケートの中で記載されているもので、アンガーマネジメントは最近、怒りをどうコントロールするかということで、いろいろありますので、その専門職としてやっていくうちに怒っちゃうことを、どういうふうに自分自身の中でコントロールしていくかというアンガーマネジメントを行うというようなことじゃないかなと思います。取り入れて。

それから教育改革というのは、これは191ページの方に「青少年の健全育成、犯罪や非行」ということで教育改革が必要だと、これ非常に大きいテーマなんですよね、きっとね。教育改革が必要ですよということで、もっと大きな青少年の育成というもので教育改革が必要だということで、説明がないのでね、ぼんと書かれているので分かりにくいところなんですけど、そのような御意見が出ているということだと思います。

かなりたくさんの方の自由記述、それから先ほど御説明がありましたグループヒアリングの記述があって、これについては今私の方から御提案で、自由記述を使うときに共起ネットワークといって、あるソフトに入ると、この言葉が非常に多用されていて、この言葉が出ると、この言葉が引っ付いてくるというのが全部出て可視化ができるんです。自由記述のまとめ方っていろいろあるんですけど、まずそれを見ていただくのも一つの手かなと思ひまして、昨日御提案したので、トーマツさんの方に御提案してみただけないでしょうかというふうに申し上げたところです。もしできなければ、またちょっと別の方法を考えたいと思いますが、簡単なんですけど手間がかかるんです。ですので、ちょっと時間がかかるので、大学院生にお金出してやってもらうとか、ちょっと考えておりますけれども、そういうことでまた皆さんには御提示したいなと考えております。

◎3 議題(3) 第4期朝霞市地域福祉計画・第4期朝霞市地域福祉活動計画策定に関する地域懇談会実施結果について

○山本委員長

ちょっと時間がなくなってきましたんですけども、(3) 地域懇談会の実施結果について、お願いいたします。

○社会福祉協議会事務局・川合課長補佐

社会福祉協議会の川合と申します。よろしくお願いたします。

まず、このたびの地域懇談会では、委員の皆様にも多数御参加いただきまして、誠にありがとうございました。おかげさまで滞りなく終えることができましたので、この場をお借りしてお礼申し上げます。

本日、机の上に配付させていただいております資料、地域懇談会、「～朝霞の『ふくし』考えてみませんか～」実施報告書を御覧いただきながら説明をさせていただきます。

まず初めに、地域懇談会を開催するに当たりましては、私ども社会福祉協議会の内部に地域福祉活動計画策定検討委員会というものを設置いたしまして、幅広い福祉の分野に携わる職員を中心に、どのような内容にするか協議を行いまして、資料や当日のプログラムを作成してまいりました。その過程の中では適宜進捗状況を福祉相談課であったり、コンサルタントに報告をしながら御意見を頂きながら検討を重ねて開催に至っております。

今回の地域懇談会は、第4期朝霞市地域福祉計画及び活動計画策定に当たり、市民の方が普段の地域生活の中で感じていることや、地域での課題を把握するとともに、それらに対する解決策や方向性について意見を伺い、計画策定の参考とすることを目的として実施いたしました。

実施の日時であったり、会場などは資料のとおりとなります。参加者の合計は193人、毎回平均して32人の参加をいただいたということになっております。

懇談会の全体プログラムにつきましては、福祉相談課と社会福祉協議会が連携しまして、コンサルタントを交えながら、市民の方に多くの意見を出してもらうには、どうしたらいいかということを中心に検討しまして、今回のプログラムで実施しております。

流れですけれども、まず、懇談会の趣旨を正しく理解していただいた上で懇談会に入っていたとところで、冒頭に「オリエンテーション」として、地域福祉計画活動計画について説明をしまして、現在取り組んでいる第3期の計画と別の目的で開催することを御説明いたしました。

続いて、「数字で見る朝霞市の現状」というところで、朝霞市の統計を基に市民の方に現状を把握していただくことを目的に、この項目を取り入れております。福祉はデジタル化することが難しいとされておりますけれども、数字でお伝えして見ていただくことにより、朝霞市の現状について一層理

解が深まり、その後のグループワークで「身近な地域の課題検討」というところが出てくるんですけども、そこにも関連する内容としたことで、つながりを持たせるようにいたしました。

この懇談会の肝となるグループワークでは、突然その場で地域の困りごとをテーマとしても意見が出るのは少ないかなというところで想像しておりましたので、地域で起こり得るケースというものを考えまして、また、市町村地域福祉計画策定ガイドラインを参考にしまして、五つの事例を作成いたしました。現在、福祉課題とされているニーズの多様化では、一つの世帯に複数の課題が隠れていることが多くありますので、包括的に取り組むことが必要とされております。今回の事例にも、一つの仮定で複数の課題を盛り込んだような事例を提示しました。五つありましたけれども事例を選んでいただく方法は、テーマというものを決めていましたけれども、テーマだけを見て、どのテーマを話し合うかグループごとに決めていただいております。選んだテーマにつきましては、それぞれイラストを活用して、その世帯がどういう課題を含んでいるのかというものを短時間で事例のイメージを描いていただけるように工夫をいたしました。

今回、市民の方から多くの意見を出すことに集中していただきかけたので、ファシリテーターであつたり、書記、発表は、職員が行うことで進めてまいりました。

プログラムの最後には、現在既に取り組んでいる、「住民同士が協力して地域で行う一番身近なふくしの活動（互助）」という切り口で報告をさせていただきまして、他人ごとになりがちな地域づくりを我がこととして主体的に取り組もうとしている市民が増えているということをお伝えしてまとめとなっております。

地域懇談会では、参加者の方から活発な意見をたくさん頂きました。また、終わりに取りましたアンケート結果についても現在まとめている段階です。

地域懇談会の実施報告書は以上となります。

○山本委員長

ありがとうございました。

6回行っていただいて、結構皆さん御参加いただいたようで、たくさんの意見が出たかと思えます。これらの内容については、どういうことが具体的に出たかについては今まとめていらっしゃるということによろしいですか。

○社会福祉協議会事務局・川合課長補佐

はい。事例を先ほど申し上げたように五つ作りまして、グループごとに、その課題をまず話し合っていたり、そこから派生した気になることというところにもお話を広げていただいて、本当にいろんなお話聴かせていただいたので、結構な量を頂いているんですけども、それを今まとめているところです。

○山本委員長

分かりました。ではそれについては、また次回、御報告いただければと思います。

ありがとうございます。

何か、これについて御質問・御意見ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

◎3 議題（４）第４期朝霞市地域福祉計画・第４期朝霞市地域福祉活動計画策定にかかる住民に身近な圏域について

○山本委員長

それでは、議題（４）の住民に身近な圏域についてということで、ここ１時間ぐらいかける予定だったんですけど、ちょっと最初の方でできませんでしたので、とても大事なところなんですけど、ここについて、時間があるだけ協議していきましようか。

それでは、ここについて御説明いただけますか。

○事務局・秋元主任

それでは、私の方から説明させていただきます。資料３を御覧ください。

資料３、「朝霞市における分野別の圏域等」でございます。

まず、「子ども・子育て」分野としまして、「朝霞市子ども・子育て支援事業」がございます。教育・保育を提供する施設、交通の利便性、効率的な資源の活用などから一つの圏域となっております。その他に、「小学校の通学区域」として１０学校区と、「中学校の通学区域」として５学校区がございます。

次に、「障害のある人」の分野としましては、「第５次朝霞市障害者プラン・第５期朝霞市障害福祉計画」では、市内全域の１圏域となっております。

「高齢・介護」の分野では、「第７期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」におきまして、五つの「日常生活圏域」を定めています。

「その他」としまして、「朝霞市民生委員児童委員の地区割」として６地区、「自治会・町内会」の運用上必要な区域割として８区、それから「朝霞市都市計画マスタープラン」における五つの地域がございます。この「マスタープラン」では、主に東上線と黒目川及び新河岸川を境界線として区切られている区割りとなっております。

また、朝霞市の地域福祉計画では、第２期及び第３期で、アンケート調査の集計・分析のための地区区分として、この区域を活用しています。

以上が、市の圏域等の状況ですが、次に、近隣3市の状況ですが、1枚めくっていただきまして、「新座市・志木市・和光市の第3期地域福祉計画における圏域」の状況でございます。

新座市では、地域福祉圏域として、「民生委員・児童委員協議会」の6地区を基本に設定しています。志木市では、五つの地域包括支援センターの5圏域を設定しています。和光市では、介護分野の日常生活圏域である「準中学校区」として3圏域を設定し、保健福祉分野の各計画における圏域を将来的に統一していくとしています。

朝霞市では、特に圏域につきまして、これまで地域福祉計画で設定はしておりません。

次に、1枚めくっていただきまして、「浜松市の事例」についてですが、浜松市は政令指定都市で人口も約79万人と規模が違いますが、圏域の設定の仕方として例示させていただきました。浜松市では、四つの段階的な圏域を福祉圏域とし、各圏域での役割を明記し、相互に機能強化を図ることにより、地域福祉を重層的に機能させて、地域福祉を推進するとしています。いわゆる「圏域を重層的に設定」しています。

また、もう1枚めくっていただきまして、「西東京市の事例」でございます。人口は約20万6千人で、新座市とも一部隣接しています。西東京市では、「三層構造の福祉圏域」を設定しています。第1層が、「小域福祉圏」として、身近な小範囲の福祉活動を行う「20地区」の小学校通学区としています。また、第2層が「基幹福祉圏」として、「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の日常生活圏域の4地区として第1層の「小域福祉圏」における「支え合い活動の活発化を促進する支援を行い、第3層が市全域で、地域福祉の総合推進、総合調整を行うとしています。

以上で、圏域の設定の仕方として二つの市の事例を提示させていただきました。

それから、前回、いわゆる圏域の3パターンについて、クロス集計したデータを今回お示しすることになっていましたが、先ほど資料1の市民アンケート調査結果報告書の13ページで示されております。

13ページでは、問10の満足度及び不満足度について12の生活に関連する項目のうち、「①児童館、老人福祉センターなどの社会福祉施設」につきまして、四つの圏域パターンとクロス集計したもので確認させていただきました。これ以降ですね、12項目に渡って、それぞれ4パターンのクロス集計が示されていますが、全て確認していかせないので、事務局の方でそれぞれ標準偏差を出し、バランスの順位付けを行い、さらに得点化しまして、それを集計して圏域パターンごとに順位を出させていただきました。その結果、一番バラつきが少なく、得点が低いのが「圏域パターン2」、次が「圏域パターン3」と「圏域パターン4」でほぼ同じです。バラつきが一番多く、得点が高いものが「圏域パターン1」となりました。

圏域パターン1の五つの区域のうち、「A地区」が、上内間木と下内間木が主な地域ですので、そ

れ以外との比較の差が表れたのではないかなと思います。また、圏域パターン2は、同じ五つの区域ですが、内間木苑が第1日常生活圏域に、つまり上内間木と下内間木の他に、朝志ヶ丘、宮戸、北原、西原、浜崎、田島を加えた地域となっています。

一つの目安として、圏域パターン2が区域間の差が少なく、圏域パターン1が区域間の差が大きいというふうに言えるのかもしれないと考えております。

以上で説明が終わります。

○山本委員長

まずですね、今日は時間がもう、ここでちょうど15分、始まるのが遅かったんですけども、ありますので、今日は議論ができないように思うんですが、どういたしましょうかということになります。ただ、じゃあこれで終わりますというのも、せっかくなので、今御説明があったアンケート、分厚いのがアンケートですね、13ページ、14ページに「①児童館、老人福祉センターなどの社会福祉施設」というものを圏域パターンを四つに分けてやってみましたという御説明があって、この朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の中では圏域は決めてこなかったんですけども、皆さんの中でですね、一番じっくりくるというか、どういう形があるかというのをちょっとお聴きしていった方がいいんでしょうか。それとも、少し難しいですか。そうしますと、何か今活動をされていて、今までの圏域の形だとじっくりこないとか、そういうふうに感じているというのがあれば、出していただくというふうにしたいと思うんですが、どうでしょうか。次回では遅いでしょうか。圏域の件については。

○事務局・佐藤参事

来年度になるかなというふうには思っていますが、スケジュール的には、まだ来年度のスケジュールは組んでいませんが、少しタイトにならざるを得ないかもしれません。まだ今回はアンケートの分析もですね、御提示できてございませんので、やはりそういったところも踏まえて圏域のお考えなどを披露していただきたいと思っております。

○山本委員長

分かりました。そうしますと、今日言って今日すぐにですね、どういうふうに考えますかというのは難しい話だと思いますので、皆さんの中でいろいろなふうに、資料31ページに色々な範囲ですね、物事を考えていく上で範囲がいろいろあって、それが計画でもばらばらになっていることについて、何か御不便とか課題だと思っていらっしゃるものが活動、あるいはお仕事をされている中であれば、それについてお聴かせいただいて、ではこの地域福祉計画・地域福祉活動計画ではどの範囲を使いながら考えていきたいと思いますかということを決めていくということになります。

2ページ目にはですね、近隣市の新座、志木、和光ではこういう圏域で決めておられるというこ

となんです。

何かありますか。どうぞ。

○事務局・佐藤参事

もう少し具体的に申し上げますと、ちょっと今日は地図の方が御用意できていないかもしれないんですけど、中学校の通学区域、小学校の通学区域、地域包括支援センターの圏域、あと、民生委員・児童委員協議会の6地域全てばらばらな状況でございます。当然、町内会、自治会の範囲もいろいろな通学区域にまたがってという形でばらばらになっているのが今、現状でございます。

国の方で進めている地域共生社会の実現では、やはり身近な生活圏域、地域で福祉を支えていこうというようなことで圏域を定めていった方がいいでしょうというような国の方針が示されてございます。ただ、今申し上げたように、全ての地域の活動がばらばらな状況でございます。やはり皆さんの、いろいろな団体の活動の中で、山本委員長も言ったように、しっくりくる活動の範囲とか連携だとか、いろいろなものが関わってくると思っておりますので、そういったところを御議論、御意見をいただければ幸いです。

今日はちょっとお時間がございませんので、また私どもの方もいろいろな資料を御用意しますし、皆さんの方でもまた次回御意見をいただければと思います。

○山本委員長

ありがとうございます。

今おっしゃった、小学校とか中学校とか包括とか民生・児童委員も、全部合体したら難しいから、少しこういう点で考えられていますよというようなものが、色が付いたのがあったりすると分かりやすいかなと思うんですけど、難しいですか。

○渡邊（俊）副委員長

行政の方でいろいろ作っているプランがありますが、一番は、町内会だと。行政区画を割ったときに、町内会がはっきり分からないような状況をそのまま維持してきているから、それってやっぱり、自分の住んでいるところのエリアが分からないんですよ。何丁目町内会じゃないから、実際に。そういう点でつながっていくときに、これは行政からいろいろなところへ連携していくためには、はっきりある程度、街区がはっきりしないと難しい。それもないから、いろいろな触れ方をしているから、それを自治会ができてから50年ぐらいたっちゃっているんで、その中で人脈ができてきちゃっているから、そういうところで組織ができちゃっているところで直すというのは、大変難しい。それをやらないと、行政区でやるようなサービスってなかなか難しいのかなと。そのためにいろいろな民生委員だったり、包括支援センターみたいな感じの今現状になってきているのかなと思うんです。逆に言うと、サービスを受ける側からすると、分かりづらい。場合によると、隣の町

内会の方が声掛けするような話になってしまう。また検討していく必要があるのかなと、すごく感じています。

○山本委員長

どうぞ。

○渡邊（孝）委員

今の圏域のことなんですけれども、今回この資料のアンケートを送っていただく前に、別の件で圏域のことを私調べたんですね。朝霞市内の。具体的にはこの資料ですと、第1から第5圏域まであると。住んでいるところからいけば第2圏域で、つつじの郷さんが関連しているんですけれども。そういうふうにして、パソコンで全部やったんですよ。それと行政の方と、全然ばらばらで、何これは、というのは初めてそれをやってみて分かりました。ですから今お話いただきましたけれども、これは早くにみんなである程度決めていかないと、前へ進まないんじゃないかなという気がします。そうしないと、学校区とか、福祉はいろんな圏域がありますから、これは是非早くやっていたら嬉しく思います。

以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。丸山委員、何かこの辺について御意見ありますか。

○丸山委員

これだけいろいろ圏域のエリアの定義がばらばらなのは、いろんな歴史とそういったいろんな役割分担が今まであったから仕方がないと思うんですけど、高齢障害児童を含めて、各計画の上に地域福祉計画が今回から位置付くようになったので、この委員会としては、ばらばらな状況、今出たように、ばらばらな状況はあまり今後の地域福祉の推進のためには適切ではないですよ、という意見を出しつつ、最終的にプランを作るのは行政の方なので、地域福祉計画としてのエリアをそこで最終的に決めてもらうのもあり、若しくは1回飛ばして、その間にいろいろな利害関係のあるエリアがあるので、調整するのもありだとは思っていますが、社会福祉協議会の活動計画とも絡むので、社会福祉協議会のエリアとの関係性と、それから今国が進めている地域生活支援体制整備事業の協議体、生活支援コーディネーターの配置のものと、なるべくリンクしていかないと、社会福祉法の今の改正の流れの中でまた違うものになっても困るなど。なので、これは結構違いということは、大きい問題なんだよというのを共有した上で、いろんな形で集まって、可能だったらこの委員会以外にもいろいろな関係者が集まって、どうしましょう、という協議とか、情報交換をしてもいいのかなと思いました。

○山本委員長

ありがとうございます。今おっしゃったように、今回からは、社会福祉協議会の活動計画と一緒になっていますので、その辺のエリアも考えていかなくちゃいけないということですね。

ありがとうございました。それでは、ちょっとすぐにやはりできないということですので、次回は、そういう圏域が分かるものがある程度見せていただけると、皆さんも議論しやすいかなというふうに思いますので、お願いをしたいと思います。

それでは、以上で四つ目が終わりました。

◎3 議題（5）その他

○山本委員長

五つ目、その他ございますでしょうか。

お願いします。

○事務局・西田補佐

長時間にわたり、ありがとうございました。次回の推進員会なんですけれども、4月を予定しております。日程等につきましては、決定次第、また御案内をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいいたします。

◎4 閉会

○山本委員長

ありがとうございます。今度はちょっとすぐですね。4月です。1か月ちょっと以内でまたお会いして、皆さん大変お忙しい時期だと思いますけれども、今の圏域と、それから素案に向けたですね、重要な会議になりますので、できれば御出席いただきたいと思います。

今日は少し遅れまして、大変申し訳ございませんでした。

それでは、これを持ちまして、朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画推進委員会第4回を終わりにしたいと思います。

どうもありがとうございました。